

2015年8月 専門家の健康上の派遣可否判定について

気候・風土が日本とは大きく異なる、医療事情も良好とはいえない開発途上国で国際協力に従事していただくためには、**心身の健康が最も重要**です。

そのため、JICA 健康管理課では、派遣される方々が健康を害することなく生活し、任務を遂行できる状態であるか健康上の観点から派遣の可否を判定しています。

この判定は、単に検査結果・既往症のみでなく、年齢、派遣される国の医療事情や生活環境等も加味して総合的に判定しますので、一般の医療機関による日本国内での通常生活のための健康上の判定とは異なる場合もしばしばあります。

自覚症状の有無に関わらず、重大な病気に罹患していないか、派遣中に重篤化する可能性はないか、また治療が必要な場合は、派遣国でも治療継続可能か等も考慮します。

過去に健康上派遣不可となった場合の参考例は以下のとおりですが、専門家派遣の案件に応募をお考えの方は、常に自分の健康に関心を持ち、心身の健康に務めていただくようお願いいたします。

「JICA 健康診断の検査項目と一般的な基準値一覧」を参考にしてください。

<過去に健康上派遣不可となった場合の参考例>

1. 心筋梗塞、脳卒中、狭心症、不整脈の既往がある場合
2. 心疾患や脳血管疾患危険因子である、喫煙、高度の肥満、高尿酸血症、高血圧、糖尿病、脂質異常症等が複数認められる場合
3. 著しくコントロール不良の高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドロームを認める場合
4. 抗凝固剤を使用している場合
5. 糖尿病で、インスリン投与している場合、あるいは空腹時血糖や HbA1c が高値の場合
6. 著しい肝機能障害、腎機能障害がある場合
7. 精神科・心療内科疾患の既往がある場合（認知症、アルツハイマー病等を含む）
8. 感覚神経系・骨格系に高度の異常があり、任務遂行に支障がある場合
9. 癌、心不全、呼吸不全、肝硬変などの慢性の重篤な疾患が現在ある場合
10. 一週間毎、一か月毎、三か月毎のように定期的な検査が必要と判断される場合
11. 前立腺特異抗原（PSA）が高値で、経過観察が必要な場合
12. 活動性胃・十二指腸潰瘍を認める場合
13. 無症状胆石であっても、小結石で発作の可能性が考えられ、未治療の場合
14. 重症睡眠時無呼吸症候群（SAS）を認める場合

以上

☆ 検査結果の値が高いと言われたあなたに！！

JICA健康診断の検査項目と一般的基準値一覧



健康診断で実施される検査項目を一覧にしました。
ご自身の検査結果と見比べてみてください。そして、
健康管理に役立ててください。

- * 基準値は検査を実施する機関や検査方法等によって異なる場合があります。
- * 僅かな異常値でも複数重なると危険と判断される項目もあります。
- * 健康上の派遣の可否は、検査結果、年齢、既往症、任国の医療事情等を加味し、総合的に判断されます。

「A項目」

検査項目	基準値	この検査でわかること	
身体測定	身長・体重測定	BMI18.5以上 25.0未満	体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)でBMIを測定し、肥満・やせを判定。
	腹囲	男性 85cm未満 女性 90cm未満	内臓脂肪型肥満の判定。
	視力	裸眼視力で0.7~1.2	近視、遠視、乱視の有無を判定。
	聴力	-10~20dB	難聴、聴神経腫瘍の有無を判定。

検査項目	基準値	この検査でわかること	
血液検査	白血球数 (WBC)	4,000 ~9,000/mm ³	高値の場合：様々な細菌感染症が疑われます。 又、白血病等の血液疾患を疑うこともあります。 低値の場合：細菌に感染しやすい状態です。まれに悪性貧血、再生不良性貧血等を疑うこともあります。
	白血球像	好中球：40~60% 好酸球：1~5% 好塩基球：0~1% 単球：4~10% リンパ球：30~45%	それぞれの白血球が、どのような割合で血液中に存在するかを調べ、病気の診断に役立てます。 (例えば、好酸球が増加している場合は、アレルギー疾患や寄生虫疾患が疑われます。)
	赤血球数 (RBC)	男：410万~530万個/mm ³ 女：380万~480万個/mm ³	血液中の赤血球数を調べる検査。ヘモグロビン、ヘマトクリットと共に貧血等の状態を調べます。

国際協力人材部
健康管理課（健康管理センター）

	ヘモグロビン (Hb)	男：14～18 g/dl 女：12～16g/dl	赤血球中の酸素を運ぶ蛋白の一種で、減少すると貧血が疑われます。
	ヘマトクリット	男：39～52% 女：35～48%	一定量の血液中に含まれる血球の容積の割合を調べます。減少すると貧血が疑われます。
	血小板数	20万～40万個/mm ³	出血を止める働きをします。減りすぎの場合は、紫斑病や白血病等が疑われます。

検査項目		基準値	この検査でわかること
尿検査	糖	陰性（－）、弱陽性（±）	糖尿病発見の検査。
	蛋白	陰性（－）、弱陽性（±）	尿蛋白が出ているかどうか調べ、慢性腎炎等の腎臓の異常を見つける検査。
	潜血	陰性（－）、弱陽性（±）	腎臓、尿管、膀胱、尿道等の異常を発見します。
	沈渣	赤血球・白血球の数が5以下	腎臓、尿管、膀胱の病気の他に全身性の病気を発見するてがかりにもなります。

検査項目		基準値	この検査でわかること
循環器系	血圧	収縮期血圧140mmHg未満 拡張期血圧90mmHg未満 (至適120/80以下)	血圧とは、心臓が血液を全身に送り出す時に血管に加わる圧力のこと。高血圧は、血管の老化を早め、心臓病、脳卒中等の病気を招きます。
	聴診所見	正常	心臓の音を聞き、心臓の異常を見つける検査。
	不整脈	無し	脈の状態を見て、心臓の異常を見つける検査。
	CTR（心胸郭比）	50%以下	胸部のレントゲンで、心臓の幅と胸郭の幅の比率を見て、心臓が肥大しているかどうかを見ます。循環器系の病気の診断に役立ちます。

検査項目		基準値	この検査でわかること
呼吸器系	聴診所見	正常	呼吸音を聞き、肺の異常を見つけます。
	胸部X線	正常	肺や心臓の異常を発見します。肺結核や肺癌の発見にも役立ちます。

「B項目」

検査項目		基準値	この検査でわかること
血液検査	CRP（C反応性蛋白）	定性法：陰性（－） 定量法：1.0mg/dl以下	体内に炎症が起こったりして組織が壊れると検査値が高くなる為、他の検査値と組み合わせて感染症等、病気の発見に利用されます。

血液検査	空腹時血糖	110mg/dl未満（空腹時）	血糖は血液中のブドウ糖のこと。糖尿病を発見するための検査
	HbA1c（ヘモグロビンA1C）	5.8%未満	長期間の血糖コントロールの目安となり、糖尿病の検査として重要です。
	総蛋白	6.5～8.2g/dl	血清中の蛋白質の総量で、低栄養、肝硬変、ネフローゼ症候群などで低下します。
	ALP（アルカリフォスファターゼ）	100～280IU/l	主に肝臓や胆道の異常の有無を調べる検査。
	総コレステロール	150～219mg/dl	血液中のコレステロール量を調べる検査。値が高い状態を高脂血症といい、動脈硬化の原因になります。
	中性脂肪	150mg/dl未満	増えすぎると、肥満や脂肪肝、動脈硬化の原因になります。
	HDL	40mg/dl以上	いわゆる善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを運び去る役割をします。値が低いと、動脈硬化や心臓病の危険があります。
	LDL	140mg/dl以下	いわゆる悪玉コレステロールと呼ばれ、肝臓からコレステロールを全身に運ぶ役割をします。値が高いと血液の通り道が細くなったり、血栓ができやすくなり動脈硬化を促進させてしまいます。
	クレアチニン	酵素法1.1mg/dl未満	老廃物の一種で、腎臓の機能が低下すると排泄できなくなり、血液中に増加します。
	尿酸	7.0mg/dl以下	血中の尿酸量を調べる。尿酸値が高いと、痛風や尿路結石の原因となります。
	AST (GOT)	8～40IU/l	肝臓や心臓等の細胞に含まれるアミノ酸代謝を促進する酵素。これらが血液中に出た量を調べ、肝臓や心臓の異常を発見します。
	ALT (GPT)	5～35IU/l	肝臓の細胞に含まれるアミノ酸代謝を促進する酵素。これらが血液中に出た量を調べ、肝臓の異常を発見します。
γ-GTP	60IU/l	肝臓の細胞に含まれるアミノ酸代謝を促進する酵素。これらが血液中に出た量を調べ、肝臓の異常を発見します。 主に肝臓に含まれる酵素で、肝臓病（特にアルコール性肝障害）の発見の手がかりとなります。	

	HBs抗原	陰性 (-)	B型肝炎ウイルスに感染しているかどうか見る検査。
	HBs抗体	陰性 (-)	B型肝炎に感染したことがあるか、予防接種を注射したことがあると抗体価が上昇します。

検査項目	基準値	この検査でわかること
その他 心電図	正常	心臓の筋肉の異常やリズムの乱れ等を検査する検査。

「C項目」

検査項目	基準値	この検査でわかること	
消化管機能を調べる検査	上部消化管 X線撮影	正常（異常陰影なし）	胃や食道の形の変化や粘膜の異常がわかります。粘膜に異常が発見された場合は、内視鏡検査等の精密検査が必要になります。
	上部消化管 内視鏡検査	正常	胃癌の早期発見に最も有効で、胃潰瘍や十二指腸潰瘍等の有無や粘膜の状態が詳細にわかります。
	ピロリ菌	陰性 (-)	胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因となる菌が存在するかどうかを見る検査です。ピロリ菌に感染していると、胃癌の母地となる慢性胃炎や萎縮性胃炎が起こりやすくなります。
	腹部超音波検査	正常	肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓の腫瘍や嚢胞等の異常を知ることが出来ます。
	便潜血	陰性 (-)	消化管からの出血の有無を調べる検査。消化管のどこかに出血があると (+) になります。大腸がん、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎等の診断に役立ちます。

検査項目	基準値	この検査でわかること
その他 PSA（前立腺特異抗原）	4.0ng/ml以下	前立腺肥大、前立腺炎、前立腺癌等の早期発見に最も有効な検査。

